

# 学校評議員の会報告書

※該当箇所には○または掲載予定日をご記入ください

ホームページへの掲載	
○	3月25日 掲載予定

---

## 岐阜県立可児工業高等学校

学校長 豊吉 守

学校住所 可児市中恵土2358-1 電話0574-62-1185

---

1 会議の名称 学校評議員による会議（第3回）

2 会議の構成

委員	安達 邦満	可児市中恵土自治会連合会長
	石原 好弘	可児工業高等学校同窓会監査 〔石原・大島設計事務所代表〕
	佐藤 千枝	可児市青少年育成推進員
	玉田 吉孝	リンナイ精機取締役
	水野 妙子	多治見法人会可児支部女性部会長

（委員名は五十音順）

学校側	豊吉 守	校長
	長谷川清志	教頭
	小森 敏男	事務長
	古田 哲	教務主任
	兼松 竹司	生徒指導主事
	鈴木 宏	進路指導主事
	大山 好武	工業科主任

3 会議の目的 学校が保護者や地域住民の信頼と期待に応えるためには、地域に開かれた学校づくりの推進が重要である。学校は家庭や地域にその運営方針を明らかにし、その理解と協力を得るとともに、学校外の有識者等の参加を得て、学校運営に対する幅広い意見を集約し、もって本校教育の一層の改善・充実に資する。

4 会議の開催 平成21年2月24日（火） 10:00～12:00  
於：可児工業高等学校 校長室  
委員4人、学校側8人が出席

- 1 会議の概要 全員の方へ出席いただき、最後の会を行った。今年度の取組と反省について担当者より説明し、感想とご意見をいただき、また、まとめとして本校職員や生徒に望むこと、自己評価、外部評価の感想等来年度へ向けての提言としていただいた。

(1) 本年度の取組と反省について (自己評価の説明から)

### 「学校経営について」

意見1 能力と経営という観点で言いますと、何かをやろうとする気持ちがあるかないか、確かに言うことを素直に聴く生徒も大事だが、工業高校のイメージとして技術的な面を強く感じるが、話をするなど（プレゼンの能力）の面では少しマイナーなイメージを感じる。こつこつとまじめに努力する姿勢も大事であるが、これからはそうした能力だけでは会社、企業としては通用しないのではないかと、これからの工業高校の生徒の在り方や指導方針について変化が必要ではないか

学校側 課題研究などの発表の仕方、まとめ方についてももう少し学校側（担当教師）の指導力が必要であると思います。生徒の自主性に対して先生がどこまで指導の手を加えるかという面で悩むところであるが、生徒自身が成就感を感じる部分が大事であるのでの中身の濃い経験をさせることが重要であると思います。

意見2 学校の名前で発表会をされる以上、発表の仕方・まとめ方について少し残念なものであった。社会ではもっとももっとこうした機会があるので良い発表の仕方を学校側は指導する必要があるのでは、そうしたことから生徒は良い経験を学ぶと思います。

学校側 先日の課題研究の発表では、経過説明が多く内容が不足していたように思います。こうした場合学校の指導能力が問われるので今後は生徒の発表であるが学校側の指導が読み取れるような内容にしていく必要があると思います。それが生徒一人一人の成長と自信につながると思います。

### 「地域連携について」

意見3 個人的に生徒さんを見ているわけではないが、青少年育成推進委員としての意見と会議での意見をまとめてみると

- ①挨拶と返事など生徒さんの明るさに好感が持てる。（学校付近の住民）
- ②MSリーダーや青少年育成会啓発活動、清掃活動などで地域に貢献している。
- ③交通マナーにもう少し気をつけてほしい、時々危険な状況を感じます。
- ④新聞などで生徒さんの活動がよく発表されており、地域の学校をよく知ることができ誇りに思うことがあります。

学校側 外部より交通ルールの苦言をいただきますので、指導の重要性を感じます。運転者側の視点で考えられるように、又、子供やお年寄りに対して安心できる観点でルールを考えさせる必要があると思います。

意見 4 先日「ラスパ」（昨秋オープンしたショッピングセンター）での可児工発表会（新聞報道）では見学させていただきましたが、生徒と来場者とのコミュニケーションが大変よかったと思いました。生徒さんの社会貢献についてよく指導されていると感じました。

### 「学習指導について」

意見 4 大所、高所で見ると生徒への対応が必要ではないか、最近入社した若者を見ると、現象面だけで判断してしまう、その現象にどのように対処するかができていない、それを換えればいいという対処で摩耗した原因を追及しない、目先の解決だけですませてしまう、交換することが対策で、その原因を追及してほしいなど、そうした観点で学習指導もしていただきたい

学校側 ものづくりの学校にはじめて赴任してきましたが、生徒が自転車のパンクが直せる、ミシンが壊れたら直そうとするのが本校の生徒である。

うまいかない部分が大事である。明るさ、元気さ、素直さ、ひたむきさが可児工の大切さではないか、生徒を主体にするために様々な学習指導が必要であると思います。

意見 5 資格取得や技能検定について充実していると思う。費用は個人もちで大変であるが資格や技能資格を取得して就職することは大切である。資格や検定は企業側へも県から推進の要望がある。会社でも奨励していることもあるので自信をもたせて欲しい。

### 「進路指導について」

意見 6 建設は大変である。いずれ大きな倒産、廃業、休業が進むであろう、連鎖倒産も視野に入れておく必要があると思います。

個々の対応ではなく、地域ぐるみでの対応が必要になってくる。学校経営としては、進路は大きな課題になってくる。今までの進路対策では良い成果は上げられないと思います。今からその対策について検討していただきたい。

意見 7 職場見学等、実際に見てくることが一番大事、良いところだけでなく様々な事がわかりやすく自分の中にきつと何かが残るので、こうした取組の提供を今後も多くの機会をつくり積極的に進めて欲しい

学校側 本年度前半は進路指導も充実していましたが、来年度に向けてどのように対策をとっていったらよいか研究中である。

生徒同士は元気であるが、先生や大人に対するとおとなしい面がある。社会的に通じる対応（指導）を早急に確立する必要がある。

意見 8 情報交換のなかですべての企業が大変である。

製造立国であるので工業高校の必要性は十分認識しています。現場では大卒はなくても高卒に興味があるのは企業サイドとして考えている。大量退職の時代なので有能な若い力が必要である。学校としての評価が大事である。

多くの企業では、内容のシフトを考えている。

電気～ソーラー ガソリン～電池 など企業の内容が問われている。

意見 9 製造現場はもろに空気が変わりました。

今後一年は難しい局面だと思います。

### 「生徒指導について」

意見 10 遅刻ゼロ週間の取り組みをぜひこれからも続けてほしいと思います。週間から習慣にという説明は本当に素晴らしい成果だと思います。

20年度の目標として年間300回以内（全校の遅刻回数）をめざしておられるという事ですが、是非達成していただきたいと願っています。

意見 11 あいさつ運動やベル席など（始業前の音楽）「一点集中」は良いことである。今後も継続し規律ある生活、規範意識の高揚を目指して欲しい。

### (2) 本校職員・生徒に望むこと

意見 1 課題研究の発表に参加して、先生方が一生懸命日頃から生徒と接し指導されていることが良くわかった。しかし、プレゼンの方法についてももう少し考える必要があるように思いました。内容がある発表でもプレゼンの方法が良くないと半減してしまうので次年度の発表に活かしてください

意見 2 可児市の行事に、先生も生徒も積極的に参加されていた姿を見ることができた。青少年育成委員会の啓発活動、可児川清掃でも高校生が活躍していた。環境フェスタでは、生徒が受付を担当してくれてたり、各科の発表やイベントは大変好評であった。

意見 3 地域への関わり方はいろいろな方法があると思うが来年もよろしくお願ひしたい。

学校側 学校全体での呼びかけ・部活動としての参加・生徒会活動としての位置づけ・工業部など、各部所で積極的に対応やアイデアを出して今後も参加したい。

現状の参加だけではなくさらに内容の充実を図りたい。

意見 4 資格取得へ今後も取り組んでいただきたい。大変な社会状況なので各自が今以上のスキルアップを目指してほしい。

意見 5 部活動の活性化（運動部）も大事だが可児工業高校としてのバランスが大事ではないか、工業高校等としての方向性を大切にしていきたい。

### (3) その他について

意見 1 女性としての感想ですが、評議員としての一年間、何もわかりませんでした。可児工業高校という高校の現場を生で見させていただいたことはとても勉強になりました。自分にとって初めての工業高校でとても興味関心がありました。これからも可児工業高校が生徒さんにとって元気で、やる気で楽しく通学できる学校であればよいと思っています。

- 意見 2 学校関係の仕事はほとんどやったことがなかったので、どのような意見を言ったらよいかわからなかったが、企業としての意見を言うことができて良かった。  
自分の勉強にもなった。
- 意見 3 一年目としての感想は、ゼロからのスタートであったので今年一年は勉強をしなければいけないという思いの一年でした。今後は今一度地域の意見などよくまとめて学校の指導方針に少しでも役立つように貢献していきたいと思います。
- 意見 4 一年目は学校を知る。(PTA・同窓会とは違う)二年目は積極的に意見を言うべきであったが、なかなか意見を言う勉強ができなかった。  
設計という仕事をしていると、しゃべることはできるが文章とか、プレゼンとして表現することが苦手である。これからの設計士としての新しい能力が必要ではないか、住宅の設計には自信があるが、それをどうアピールするかが苦手であるのでその点の指導が同じ工業高校生にも言えるのではないか、評議員としての三年間もっともっと踏み込んだ意見を言うべきであったと今反省しています。

## 会議のまとめ

今年度最後の会であったので「学校経営・学習指導・生徒指導・進路指導・特別活動」の自己評価・外部評価をもとに会を進めていただいた。特に「開かれた学校」「地域連携」「工業高校の生徒像の特色」に話題が集中した。又、評議員としての一年についても各評議員の皆さんの思いを語っていただきました。

学校経営では、HPの更新やメルマガを利用した行事の案内などを行うことや可児市主催行事への積極的な参加で(環境フェスタ・青少年育成協議会・公民館活動等)地域連携を深めたことに評価を頂いた。

学習指導や生徒指導では、規律ある授業実践や規範意識の高揚へ向けて今後も努力して欲しい旨が語られた。特に「あいさつ運動」は可児市スローガン「あいさつが誇れるまちづくり」地域ぐるみで取り組む青少年育成運動の一貫でもあり、本校としても懸垂幕を利用したりして継続して実施していくこととした。

次年度は交通安全に関する懸垂幕を作成して生徒の交通安全の意識を高められるよう指導の充実を図り、指摘いただいた学校周辺での交通マナーの改善を図りたい。

進路指導面では、学校全体で取り組んでいる資格取得や課題研究などの内容が企業側へ良く伝わるよにすることも大切とアドバイスを頂いた。

今後増えてくるであろう進学態勢・進学指導の充実を計り本校のよさ、授業内容や工業高校の取組についていろいろな機会をとおして積極的にアピールしていくよう提言が頂けた。